

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800321		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホーム プラティア平野		
サービス種別	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市平野区喜連東5丁目15番26号		
自己評価作成日	令和元年10月7日	評価結果市町村受理日	令和元年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和元年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の運営理念である、『利用者本位』をベースに全社で取り組んでいる『寄り添い介護』を行なうためにご利用者様一人ひとりの思いや願い・夢を実現できるように職員が一丸となり思い等をしっかりと聞き取り・引き出せるような関わりを持ってケアをおこなっている。また職員が笑顔でケアにあたることで穏やかで明るい雰囲気生活できるような空間作りをおこなっている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域への外出や地域行事への参加・ボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、区の連絡会やネットワークへの参加等、地域交流・地域貢献に取り組んでいる。余裕のある人員配置を活かし、手作りの食事提供を継続し、毎月のイベント・「寄り添い介護」での個別外出等、利用者が生活を楽しめる機会づくりに努めている。法人のクリップラインによる研修、事業所内の勉強会、全体・フロア会議の定期的な開催、人事考課を継続し、職員の資質向上に努めている。面会時・毎月のお便り・ブログ等で、家族に行事や生活の様子を伝え、家族との連携に努めている。医療連携体制を整備し、希望があれば看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	第3者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の唱和を全体会議時に必ず行い、新入社職員に対して運営理念を基に作成した動画を用いて分かりやすく共有実践している。	法人共通の「運営理念」を玄関・事務室に掲示し、月1回の全体会議で唱和し共有を図っている。法人共通の具体的な「5つのスローガン」の中に、「地域社会と共に」として地域密着型サービスの意義を明示している。新人研修・現任者研修・クリップラインの動画研修の機会に、法人理念について理解を深める取り組みがある。「寄り添い介護」・季節行事・地域への外出に積極的に取り組み、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の清掃活動を職員とともに行なったり、町会での他世代交流のイベントに参加している。	気候の良い時期には近隣への散歩を日課とし、職員と共にホーム周辺の清掃活動を行なっている。買い物・理美容・喫茶・外食などで地域の店舗を利用している。町会の他世代交流イベント・区民祭り・地域の他事業所の秋祭り等にも参加している。敬老会・クリスマス会等行事の際に、地域から演芸・演奏・ダンス等のボランティアの来訪がある。区の医療介護相談所として登録して玄関にも掲示し、キャラバンメイト活動への協力、また、今年度から中学生の職業体験の受け入れを行う等、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療・介護の相談所の登をおこない、地域の介護に関する相談窓口を行なっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況の報告や直面している課題についての助言や意見を求めそれをもとに会議やカンファレンスで改善向上にむけた検討を行っている。	大阪市の規定にもとづき、会議と文書郵送により定期的に運営推進会議を行っている。利用者(輪番制)・家族・地域包括支援センター職員・町会長・知見者(他事業所管理者)を構成メンバーとしている。会議では、利用者・職員の状況、行事・研修・寄り添い介護等事業所の取り組み、事故等について報告し、時期に応じたテーマで情報提供している。会議開催時には、郵送開催時の意見等の報告と回答も行っている。参加者から把握した意見・提案・情報を運営やサービスに反映できるように取り組んでいる。議事録は玄関に設置して公開している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令解釈や利用可能なサービスについて電話で助言をいただいている。また生活支援に関しては窓口にて直接助言を頂いている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員・町会長の参加があり連携を図っている。管理者が、2ヶ月に1回開催される「平野区グループホーム連絡会」に代表として参加し、また、区の行政・医療・福祉関連機関で活動する「ルンルンネットワーク」にも参加している。福祉的支援を要する利用者の受け入れを積極的に行い、区のケースワーカーと協働して支援している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については社内勉強会・動画による研修にて正しい理解を学習し実践できる機会を設けている。また身体拘束適正化委員にて検討をおこない共有している。	「身体拘束適正化に関する理念及び方針」を整備し、3ヶ月に1回「身体拘束等検討委員会」を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。指針と委員会議事録をファイルに綴じて玄関に設置している。年度初めの運営推進会議で、委員会の報告と議事録の配布を行っている。委員会の議事録をクリップラインで発信し、職員全員に周知している。研修については、クリップラインの動画研修と事業所内勉強会で学ぶ機会を設け、受講と勉強会資料確認により、職員全員の周知を管理者が確認できる仕組みがある。玄関は防犯上施錠しているが、階段やエレベーターの使用は自由で、外出の意向があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように努めている。		

グループホーム プラティア平野

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の機会を確保し虐待についての意識を持ち防止に努めている。また動画を用いて研修に参加できない職員に対しても共有を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の機会を確保し権利擁護について学ぶ機会を確保している。また司法書士などの後見人から制度について助言を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時・入居前・入居時全てにおいて重要事項説明書を基にご説明を行なっている。また入居後についてもご不明な点はいつでも相談できる旨を契約前に適切にご説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族ご関係者やご入居者様にご参加いただき意見要望をお聞きしている。生活上のご希望等に関するご家族様ご来訪時に説明や助言をいただき検討し運営に反映させている。	運営推進会議への出席や文書での参加により、利用者・家族の意見の把握と、外部者に意見を表す機会作りを行っている。家族には、面会時に近況を伝え、毎月の個別の「便り」やブログで行事や生活の様子を伝え、また、玄関に意見箱を設置し、意見や要望が表しやすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、申し送りノートやフロア会議で共有し、個別に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員とコミュニケーションを取りやすい環境づくりを意識している。また年3回以上個人面談の機会を確保している。	全体会議・フロア会議を毎月実施し、職員が意見や提案を出し合って話し合い、管理者も参加して把握している。各会議の議事録はクリップラインで発信し、参加できなかった職員にも周知を図っている。管理者は、定期的に年3回個人面談を行い、日常的にもコミュニケーションをとり、個別に意見・提案の聴く機会を設けている。管理者がエリア長も兼務しているため、経営会議や管理者会議で、職員の意見・提案を法人の代表者に伝える仕組みがある。物品購入、クリップラインや電子カルテの活用方法について等、職員の意見・提案を運営に反映させている。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として人事考課・能力要件を基に客観的な評価と現場での状況を総合的に判断している。また面談時などで目標や意見などを参考に職場環境を整えている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社初年度の新任研修・3年目の現任研修を中心に社外研修に対しての費用負担を軽減できる制度を周知している。また資格取得に対しても費用支援を行なっている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に参加し情報の共有交換をおこなっている。また各連絡会主催の勉強会やセミナーへの参加もおこなっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行ないご本人様の希望や要望などの情報を集め生活環境を確認しスムーズに入居できる支援をこなっている。入居直後は職員との関係性の構築の為積極的に関わりをもち得た情報を職員間で共有を行い不安の軽減に努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までの介護に対しての不安や要望に対し連絡調整を受け付ける機会を確保している。入居後に多くのご家族様が感じるであろう部分についてはこちらから事前に説明を行なうと共に入居後に関してご本人様のご様子の報告を行なうように努めている。		

グループホーム プラティア平野

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談や入居前には分かず入居後の関わりの中からわかった必要な医療や公的制度(後見人制度やあんしんサポートなど)の利用をご本人様やご家族様含めて検討・支援を行なっている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のADLや得意な事好きな事に重点を置き職員と共にできる作業を共に行い役割ややりがいを感じて生活できるような関係性をきづけるよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の今までの介護を尊重しながら入居後もご本様と良好な関係性を持てるよう訪問時には職員が普段のご様子をお伝えしている。また毎月写真つきでご本人様のご様子をお手紙で報告させていただいている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得たりまたは職員が共に馴染みの場所に外出できるよう支援をおこなっている。	入居時に把握した馴染みの人や場所についての情報があれば「フェイスシート」に記録し、入居後に把握した情報はフロア会議等で共有している。家族や友人など馴染みの人の来訪があれば、ゆっくり過ごせるように配慮し関係継続を支援している。馴染みの理髪店の利用を継続したり、「寄り添い介護」を活用して以前通っていたプールに泳ぎに行く等、馴染みの場所との関係継続にも取り組んでいる。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢性別や性格等把握し良好な関係性ができるよう職員がサポートをおこなう。行事やイベント時数人の入居者様と職員で協力し準備実行をおこなっている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も随時ご本人様やご家族様のご相談および支援を受け付けております。また次サービスをスムーズに利用できるようご本人様及びご家族様の許可を得て情報の提供も行なっております。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での発言・行動・表情等から希望や思いを感じ取りノートや日誌に書きとめ職員で共有しカンファ等で検討を行っている。また発信が困難なご利用者様については過去の生活暦などから検討をおこなっている。	入居時に把握した思いや意向については「フェイスシート」に記録し、日々の会話等から把握した内容は、申し送りノートやフロア会議で共有している。把握した思いや意向は、内容に応じて、日々の支援・「寄り添い介護」・介護計画に反映できるように取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取ったり、以前の情報から推察したり、家族からの情報や意見を参考にし、フロア会議で検討して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談時にご本人の生活されている環境や生活歴を直接把握しご本様やご家族様やケアマネから情報を頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、共有ノートを活用して職員間で情報の共有を行なっている。また状態の変化に気づけるよう積極的な関わりを持つように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態の変化があった場合にカンファレンスを開催し課題解決に向けてご本人・職員・医療関係者・ご家族などから意見やアイデアを出しそれを基にプランに反映させている。	「フェイスシート」・介護計画の「現在の状況」(アセスメントシート)をもとに、介護計画を作成し、フロア毎にファイルを設置して職員に周知を図っている。サービスの実施状況を電子カルテに入力し記録している。毎月のフロア会議で利用者個々の状況の共有と、必要な検討を行っている。定期的には6か月毎に介護計画の見直しを行い、見直しの際にはモニタリングと再アセスメントを行っている。利用者・家族の意向やかかりつけ医等関係者の意見もモニタリングシートに記録している。	フロア会議での介護計画の見直しについての検討が明確になる、議事録の記載が望まれます。電子カルテを活用し、介護計画と記録の連動性がより明確になる記録方法の工夫を期待します。

グループホーム プラティア平野

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動や気づきは個別の記録に記入し健康状態についてもバイタル表や排泄表などを用いて出勤時は必ず確認している。また特記事項に関しては別途共有ノートや日報に記入しより分かりやすくしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容・訪問歯科・訪問マッサージなど訪問していただけるサービスや町内にある美容室や喫茶店・飲食店の協力を得て施設外の店舗の利用も行なっている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の世代間交流イベントに参加したり、町内の美容院や喫茶店・飲食店を認知症のご理解を頂き活用させていただいている。		
30	(11)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行いご本人様・ご家族様が希望されるかかりつけ医を選択いただいている。またかかりつけ医の専門外の医療に関してもかかりつけ医との連携を図りながら受診の支援を行なっている。	入居時に利用者・家族の意向を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。協力医療機関による、内科・精神科・歯科の往診と、協力医療機関からの看護師の訪問があり、24時間の医療連携体制がある。通院での受診については、家族での通院をお願いしているが、管理者が受診支援を行うことが多く、情報提供や受診結果の把握を行っている。「健康管理日誌」に職員からの伝達事項と往診医からの回答を記録し、訪問看護の内容は看護師が「看護記録」に記録している。往診・通院の内容は電子カルテにも入力し、職員に周知している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と訪問時はもちろん電話での助言や指導を頂戴している。また健康管理日誌を活用し職員間でも共有を行っている。必要時は医療機関への受診の支援をおこなう。		



自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には薬情やケアプラン及びアセスメント情報や必要に応じて個別日誌を病院関係者に提示している。また定期的な面会を行い状態の把握早期退院と退院後の受け入れ態勢も含めて病院関係者・ご家族様と相談・検討を行っている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様・ご家族様に対しご説明をさせていただいている。また入居時にはなかなかイメージがわからない為そのような状態に近づいた際に再度ご説明させていただく事もお伝えしている。介護職員で対応可能なケアと禁止されている医療行為についての具体的な説明も含め医療機関などと連携しながら終末期を迎える体制で支援をおこなう	契約時に、「医療対応指針」と「看取り指針」をもとに、重度化・終末期に向けた事業所の方針を説明し同意を得ている。終末期を迎えた段階でかかりつけ医が説明し、事業所も再度指針について詳細な説明を行い、また、事業所で出来ること・出来ないことも説明し、家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば、看取りの介護計画を作成し、かかりつけ医・看護師・薬剤師等関係者と連携をとりながら、家族の意向に沿った支援を行う方針である。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修において緊急時(急変・事故)対応方法の勉強会を開催している。また連携医療機関の看護師や医師から指導いただいている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練や社内勉強会にて非常災害時の対応をおこなっている。また非常災害時の対応マニュアルを各フロアに配置している。運営推進会議にて施設ないの配置避難経路の説明をおこない災害時の協力を求めるとともに地域の避難所としての活用の提案を行なっている。	年に2回、夜間想定で、利用者も一部参加して、通報・避難・消火の総合訓練を実施している。年に1回は大阪消防振興協会の立ち合いをお願いし、訓練実施後には助言を受けている。参加できなかった職員には、「訓練の実施計画書」と「訓練の振り返り・総評」を回覧し周知を図っている。社内勉強会で、自然災害時の対応について研修を行い、クリップラインで周知している。運営推進会議で、施設内の避難経路の説明を行い、また、地域の避難所としての活用を提案し、災害時の協力関係が築けるよう取り組んでいる。法人からの支給で備蓄を整備している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の今までの人生を尊重するとともに現在の状態・人格を受け止め真心をこめて支援にあたっている。	利用者尊重・尊厳の保持・プライバシーの確保について、「運営方針」「5つのスローガン」「プラティア禁止事項」に明示し周知を図っている。クリップラインの動画研修や社内勉強会で、権利擁護や接遇について学ぶ機会を数多く設け、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について意識向上に努めている。写真やブログについては「入居時確認書」で意向を確認し、個人ファイルは事務所の鍵のかかる書庫に保管し個人情報の適切な管理に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の何気ない会話や表情・行動などから希望や思いをくみとったり、表現できるような役割や行事など職員が関わり表現できる環境・雰囲気作りを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の全てがご利用者様のペースに合わせることができないことがある為、会議やカンファなどで業務改善やかかわり方について再検討を行いご利用者様のペース・日々の生活について希望にそえるようにつとめている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や町内の美容室を利用したり、一緒に外出して衣類や化粧品を好みの物を選んでいただけるよう支援している。		

グループホーム プラティア平野

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や特技に応じて食事の準備や調理補助を職員と一緒にいったり、下膳などもできる限り行なっていただいている。また食事はご利用者様、職員共に同じものを一緒にコミュニケーションを取りながら楽しんでる。	昼食と夕食は、業者から届く献立と食材で手作りの食事を提供している。日曜の夕食は利用者の希望や季節感を採り入れて各フロアで献立を考え、買い物を行い調理している。朝食は、職員が献立・買い物・調理を行い、金曜日の朝食は好みのパンを選ぶことができるようにしている。利用者の状況や希望に応じて、買い物・調理・盛り付け・後片付けに参加できるように支援している。職員も同じ食事を一緒に食べ、家庭的な雰囲気ですぐに食事が楽しめるようにしている。プランターで一緒に育てて収穫した夏野菜を調理したり、梅シロップ作り・お好み焼きやホットケーキのおやつづく、「寄り添い介護」を活用した個別の喫茶や外食、行事の際の行事食や外食など、「食」が楽しめる機会作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日記録し増減などの変化がわかるようにしている。その結果から食事形態や水分形態を工夫するなどご利用者様一人ひとりにとって適した物を提供できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて介助の割合を変更したり、歯ブラシ・スポンジ・シートなど道具を変え残存能力を活用しつつ職員は口腔ケアに当たっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら排泄パターンや間隔を把握し各個人にあったリズムで誘導・介助をおこなっている。またカンファレンスで排泄について検討し自然排泄できる介助について話し合いを行なっている。	排泄表で排泄状況や排泄パターンを把握し、誘導・介助により、昼間はトイレでの排泄を支援し、夜間は利用者個々の状況に応じた支援を行っている。ADLの低下等で座位保持が困難な利用者も、可能な時は2人介助でトイレでの排泄ができるように支援している。看護師からの助言も取り入れ、フロア会議で検討し、利用者個々の現状に適した介助方法や排泄用品の使用を行っている。異性介助を嫌がる利用者には同性で対応し、ドアの開閉や声かけ時に留意し、羞恥心やプライバシーへの配慮に努めている。	

グループホーム プラティア平野

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・運動量・食事内容など総合的に検討をおこないできる限り薬剤にたよらない自然な排便が出来るよう検討をおこない、また排泄に関しての勉強会もおこなっている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ADLの高い特定のご利用者様に関しては好きなタイミングで入浴していただけているが、多くのご利用者様に関してはお声掛けはさせていただいているが時間帯を施設側で決めてしまっている。	入浴表で確認しながら、週2回以上入浴できるように支援している。自立度の高い利用者については希望の時間帯に一人での入浴を、その他に利用者については個々の状態に応じて入浴介助を行っている。同性介助の希望に対応し、現在は入浴を嫌がる利用者はいない。ゆず湯・しょうぶ湯・入浴剤や、父の日イベントで銭湯に出かける等、入浴を楽しめる取り組みを行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間・昼間とわず消灯時間等の取り決めはなくご利用者様の状態に合わせてお声掛けを行ったり好きな時間にお休みになっている。またベッド環境など睡眠空間の温度や寝具なども考慮している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携により薬の効果・副作用について情報をいただいております。詳細について知りたい場合も質問するなどの対応をおこなっている。また薬の変更や追加時には特に状態の変化を注視するよう努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技や趣味を大事にし役割や楽しみが持てるように支援している。またお酒などの嗜好品についても著しく健康に害が無い限り楽しんでいただいている。		

グループホーム プラティア平野

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寄り添い介護というもので職員がサポートしながらご利用者様と外出支援をおこなっている。町内の居酒屋や散髪屋などにもご協力いただき電話による連絡などをしていただいています。	日常の外出として、散歩や食材・個人の買い物に出かけている。初詣・花見に出かけたり、町会の他世代交流イベント・区民祭り・地域の他事業所の秋祭り等にも参加している。寄り添い介護を活用し、プール・居酒屋・喫茶店・ペットショップ・以前住んでいた地域等へ、個別の外出支援にも取り組んでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心感を得られる方に対してご家族様に確認し所持・使用していただいています。その他の方に関しては預かり金として管理し必要時に使用できるようにしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し自由にお電話されている方もいらっしゃいます。またお手紙をかき職員と一緒に投函しに行くなどの支援をおこなっている。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔感があるように清掃をおこない花壇には季節感のある草花を植えている。また掲示物に関しても季節がわかる飾りやポスターを掲示している。	共有空間は、採光よく明るく、見通しの良い広いスペースである。利用者の状況や関係性に配慮して、フロア毎にテーブル席やソファの配置を工夫している。利用者と一緒に制作した季節感のあるはり絵を壁面に飾り、玄関前のプランターに夏野菜を植栽して水やりや収穫を利用者と一緒に行い、季節感を取り入れている。キッチンから調理の匂いや音が感じられ、また、利用者の状況に応じて調理・洗濯干し等家事参加を支援し、生活感が感じられるように工夫している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやエントランスに椅子やベンチを配置し一人で過ごしたり少人数でお話ができる空間を確保している。		

グループホーム プラティア平野

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂きできる限り今まで生活してきた配置や雰囲気近づけるように配慮している。	居室には、洗面台・クロゼット・ベッドが設置されている。整理棚・テーブル・テレビなどの使い慣れた家具や道具、仏壇・人形・パソコン・キーボード等が持ち込まれ、自身の刺繍の作品を壁に飾る等、その人らしさが感じられる環境となっている。家庭の状況等で持ち込みが少ない利用者には、生活に不自由がないように事業所が支援している。居室担当職員を設置し、家族と連携しながら、衣替えや環境整備等を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など全てのご入居様が分かるように図形や文字・言葉などで工夫をおこなっている。また自由に移動ができるよに身体能力にあわせて福祉用具の利用も検討の上使用している。		